

課題 8 . 愛知県予防接種センター

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 1,253件 契約市町村数 20市町 2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 867件 3. 予防接種研修会の開催 1回 4. 予防接種センター調査検討委員会の開催 調査検討委員会1回、研究部会2回 5. 調査研究 「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査(2次調査)」
教育・研修	予防接種研修会 平成16年9月11日(土) シンポジウム「こうすれば地域から麻疹が根絶される！」 コーディネーター 名鉄病院予防接種センター部長 宮津光伸 1. 「麻疹とSARSはどっちが怖い? - 今改めて麻疹の臨床を学ぶ」 愛知医科大学小児科講師 濱口典子 2. 「ワクチン接種者の本音 - 麻疹ワクチンの質向上に関するアンケート結果から」 花田こどもクリニック院長 花田直樹 3. 「やっぱり受けよう! 予防接種」 佐々木こどもクリニック院長 佐々木邦明
保健・医療相談	1. 相談内容は、「接種時期・方法」に関する相談が最も多く7割を占めた。 2. 相談者は本人・家族が多く、相談内容の多くは「基礎疾患と予防接種」次いで「接種スケジュール」で6割以上を占めていた。
情報サービス	ホームページに掲載 「予防接種センターのご案内」
調査・研究	「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査(2次調査)」 麻疹の撲滅ならびに麻疹予防接種率と質の向上のため、麻疹ワクチン接種に従事している医師の啓発を目的とした調査。 平成15年度に1次調査を実施。今年度、その調査の結果をもとに、質問に関する解説書を配布。その後、2次調査で周知度を測定。
学術活動	・「基礎疾患児に対する麻疹ワクチン接種の現状と問題点」 山崎嘉久 2004.4.6 第78回日本感染症学会(東京都) ・「麻疹ワクチン接種率と質の向上に向けて - 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査から - 」中澤和美 2004.10.30 第51回日本小児保健学会(盛岡市) ・「麻疹ワクチン接種率と質の向上に向けて - 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査から - 」中澤和美 2005.1.22 平成16年度愛知県公衆衛生研究会(東浦町)

実施活動項目ごとの評価：愛知県予防接種センター

<p>評価の方法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談件数と相談内容の分析 ・ 接種要注意者等への予防接種実施件数と内容の調査 ・ 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査の効果判定 ・ 研修参加者へのアンケート集計
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性</p> <p>(1) 相談内容では「接種時期・方法」が61.6%と最も多く、次に「海外渡航」23.3%であった。海外渡航の相談は、平成15年度と比較すると約80件の増加で割合も9ポイント増となった。「接種時期・方法」の中では「基礎疾患と予防接種」「接種スケジュール」が多く、相談者は家族がその多くを占めていた。このことは、契約市町からの依頼で実施している要注意者への予防接種の実施や相談に対応しているといえる。また、「接種スケジュール」の相談が多いのは、市町村が当センターを予防接種センターとして活用している表れではないかと予想され、平成14、15年度と同様の結果であった。</p> <p>(2) 予防接種実施件数は1,253件であったが、その内訳、接種要注意者等への予防接種の実施とその他海外渡航等の予防接種実施件数が分類できないため、これによる評価は難しい。ただ、(1)の相談内容の分析では、家族からの相談で「基礎疾患と予防接種」が多かったこと、また、契約市町が20市町に増え、当予防接種センターの存在が認識されつつあると思われた。</p> <p>2. 問題点</p> <p>相談内容の分析から、相談者は本人・家族が圧倒的に多く、海外渡航の相談を除けば市町村が実施している定期予防接種に関する相談である。このことから当予防接種センターの設置目的でもある相談体制の充実のため、市町村等との情報の共有が必要だと思われる。</p> <p>3. 事業継続に関する意見</p> <p>県の予防接種センターとしての位置付けであり、予防接種に関する相談のニーズもある。また、契約市町村も増え市町村からの期待にも応えられるようさらに充実していく。</p>

予防接種実施状況

	H16.4月	5月	6月	7月	8月	9月
三種混合	8	7	9	8	9	6
二種混合	1	1	1	0	2	5
破傷風	3	7	1	6	2	1
日本脳炎	5	7	2	7	7	6
ポリオ	4	2	3	5	6	2
麻疹	4	5	8	5	6	7
風疹	4	0	4	3	1	3
ムンプス	5	1	2	3	5	2
水痘	3	2	2	2	2	4
ツベルクリン	3	1	0	0	0	3
BCG	5	1	0	0	0	3
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	4	4	3	6	3	3
A型肝炎	5	9	20	6	4	4
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0
狂犬病	3	2	17	1	2	4
肺炎球菌	0	0	0	0	0	0
計	57	49	72	52	49	53

	10月	11月	12月	H17.1月	H17.2月	H17.3月	計
三種混合	5	7	5	4	5	1	74
二種混合	1	1	1	0	0	3	16
破傷風	0	0	0	1	2	3	26
日本脳炎	4	1	1	1	5	9	55
ポリオ	4	1	2	2	3	10	44
麻疹	7	3	3	8	4	9	69
風疹	2	0	2	2	3	3	27
ムンプス	0	0	1	6	0	2	27
水痘	1	1	4	1	2	3	27
ツベルクリン	1	0	1	3	1	11	24
BCG	1	0	1	3	2	13	29
インフルエンザ	23	553	105	16	1	0	698
B型肝炎	4	0	2	4	2	6	41
A型肝炎	2	0	2	2	0	0	54
ジフテリアトキソイド	0	0	0	1	0	0	1
狂犬病	2	0	0	2	2	6	41
肺炎球菌	0	0	0	0	0	0	0
計	57	567	130	56	32	79	1253

研修会実績と評価(1) 予防接種研修会

実施日時	平成16年9月11日(土)午後2時30分から4時20分まで
参加者数	(医療機関)医師・薬剤師・看護師・保健師・事務職(保健機関)医師・獣医師・臨床検査技師・保健師・看護師・事務担当 計109名

シンポジウム

「こうすれば地域から麻疹が根絶される！」

コーディネーター 名鉄病院予防接種センター部長 宮津光伸

- 1 「麻疹とSARSはどっちが怖い? - 今改めて麻疹の臨床を学ぶ」
愛知医科大学小児科講師 濱口典子
- 2 「ワクチン接種者の本音 - 麻疹ワクチンの質向上に関するアンケート結果から」
花田こどもクリニック院長 花田直樹
- 3 「やっぱり受けよう! 予防接種」
佐々木こどもクリニック院長 佐々木邦明

1 「麻疹とSARSはどっちが怖い? - 今改めて麻疹の臨床を学ぶ」

愛知医科大学小児科講師 濱口典子

- ・ 麻疹の疫学 感染症サーベイランスから、患者発生数、患者年齢。年間80人が死亡
- ・ 麻疹はヒトが唯一の宿主、飛沫感染により伝播
- ・ 麻疹の臨床経過 潜伏期、カタル期、発疹期、回復期
- ・ コプリック斑、麻疹の発疹
- ・ 麻疹の合併症 肺炎、中耳炎、クループ症候群、心筋炎
中枢神経系合併症 脳炎 1000例に1例 20-40%に中枢神経系の後遺症、15%が死亡
SSPE(亜急性硬化性全脳炎) 100万例に1例
麻疹に感染後、約10年で発症する。知能障害、運動障害が徐々に進行し、
発症から平均6~9か月で死亡。進行性の予後不良疾患。麻疹自体の症状は殆どが軽症。

2 「ワクチン接種者の本音 - 麻疹ワクチンの質向上に関するアンケート結果から」

花田こどもクリニック院長 花田直樹

麻疹ワクチン接種に従事している医師の意識と医療機関の実態を把握するため、麻疹ワクチンの質向上に関する調査を実施。麻疹ワクチン接種の啓発に関する項目を始めとして、卵アレルギー児や熱性けいれん既往児への接種などにおいて、医師会・小児科以外群は、医師会員・小児科群と病院小児科群に比して殆どの項目において低値を示していた。

3 「やっぱり受けよう! 予防接種」 佐々木こどもクリニック院長 佐々木邦明

- ・ なぜ予防接種をするのか? ・ 予防接種サクセスストーリー
- ・ なぜ予防接種を受けないの?
副作用が心配、忙しくて受けに行けない、もう流行っていない病気、自分の子は大丈夫、体が弱いから、痛くてかわいそう、病気は自然にかかった方がいい
- ・ 日本は予防接種の少ない国、アメリカなどと比較
- ・ これから・・・)麻疹ワクチンは2回に増やす)MMR ワクチンを見なおす
)ポリオワクチンは不活性ワクチンにかえる
)インフルエンザ桿菌のワクチンを始める
)肺炎球菌のワクチンを始める

主な質問と回答

Q1：麻疹ワクチンを12ヶ月より前に接種する場合には、どの時期に接種したらいいのか？

A1：麻疹は日本では1歳からで、12ヶ月から15ヶ月にとの指針が出た。保育所に入れたいので早く打ちたいと希望される方は任意で有料で接種する場合がある。当病院では絶対9ヶ月以降と考えている。6ヶ月くらいまでは親からの免疫が残っている。一般的には8ヶ月、9ヶ月まで免疫持っている子もいるため。その後1歳過ぎたら適当な時期に定期で2回目を接種すれば大丈夫。2～3年前に沖縄で麻疹が流行した時に、6か月以上の子の希望者に特別措置で接種した。それで大流行を撲滅したといういい例がある。それが果たしてどこまで有効かを現在調査中。

Q2：小学校入学前に接種歴を確認することは確かに必要だと思うが、問題はそこで未接種とわかって、頑なに打たない人に関しては対応のしようがない。今、校医をやっているが、1年生で2組は一切予防接種をしていない。予防接種について話をしたいと、学校側を通じていってくれといっても学校側はそれはできないと。当医院に受診するように言ってもらうようにしても、親が嫌だといったらどうしようもない。我々がどんなにいろいろやろうとしても、医療機関は来てくれないことには話の仕様がなし。小学校で見つけていながら、そんなことなら知らなきゃ、気持ちがスッキリする、というくらい悩んでいる。

シン
ポ
ジ
ウ
ム

A2：現在、就学時に書類で予防接種歴をチェックするようになっている。未接種理由を聞くと、忘れていたとか、小さいときに喘息だったとか、予防接種は悪だ、絶対に受けないという頑なな親がいる。これにはお手上げ、かなり宗教的であるから、パンフレットを担当の先生に渡しておいてもらうように頼んで終わり。ところが、そういう方が時々懺悔にくるときがある。子どもが10歳、12歳になってから。どういう順番でうてばいいでしょうかと相談あり、スケジュールを立てて自費でポチポチとやることもある。改心する人も増えてきている。

Q3：麻疹ワクチン2回法の件は、その有用性がないと法律では進まない。2回法をすすめていくには、行政として地域で何かできるのか。

A3：2回法について、1回接種して、良い悪いは別としてワクチン failure というのが必ず100%つくのではなくて、5～10%は麻疹ワクチンを受けた中で抗体のあがっていない人がいる。それを全部抗体チェックする訳にはいかないから2回接種する、ちょうど就学前にもう1回接種。もれている人も受けられ、かつ、ワクチン failure の人にも対応できる。さらに、1回法では抗体が20歳過ぎてから落ちてくるんじゃないかといわれており、それも防げる。ということで国が推奨するのであれば、あまりデータがなくても、賛成、導入してほしい。

確かに麻疹ワクチンは一般的に10人に一人はつかないと理解していただきたい。その一つは温度管理が非常の悪い。名鉄病院予防接種センターができたときに、うちでは殆ど抗体を調べるようにしているが、麻疹のワクチンを打って陽転率86%、うちでは全て冷凍している。あとは流通経路が非常にいいかげんだということがわかった。流通経路をチェックしたら、95%くらいになったという経験がある。うちで温度管理をしても今は95%いかず92～93%程度なので、他のところでは90%を割っていると想像している。今回の調査では抗体検査をしているところは20%足らず、問題はやった後どうしたらいいのか？という質問がくる。結局は自費でうつことになる。2回法でやるということになれば、国の方針なので当然定期接種になる。だいたい15ヶ月のうち、4～6歳でうつという先進国がやっているやり方で、小学校入学前にもう1回抑えておこうという方針が出てきている、まだ決定されていない。

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者 109人 アンケート回収数：88枚（回収率80.7%）

研修会名	予防接種研修会						
研修者の職種	医療機関：医師22、看護師17、事務職6、保健師1、薬剤師1、診療放射線技師1 保健機関：保健師15、看護師11、医師1、獣医師1、臨床検査技師1、事務職4、 その他職種1 その他看護師1人 不明5人						
研修者の年齢分布	20歳代：7人、30歳代：21人、40歳代：33人、50歳代：14 60歳代：2人、70歳代：3人、不明8人						計88人
研修者の性別	男性：26人 女性：58人 不明4人						
アンケート質問項目		1	2	3	4	5	わるい 不明
	．本日の研修全体のプログラムはいかがでしたか？	49 (55.7%)	28 (31.8)	9 (10.2)	0	0	2(2.3)
	．シンポジウムは参考になったか 1非常に参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	38 (43.2)	42 (47.7)	6 (6.8)	2(2.3)	0	0
	．麻疹について理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	36 (40.9)	46 (52.3)	6 (6.8)	0	0	0
	．麻疹ワクチンの質向上に関する調査結果についてはいかがでしたか？ 1非常に参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	28 (31.8)	50 (56.8)	8 (9.1)	2(2.3)	0	0
	．シンポジウムの内容は今後の各医療・保健機関での予防接種事業に参考になりましたか。	35(39.8)	45(51.1)	5(5.7)	2(2.3)	0	1(1.1)
	．各機関では、麻疹ワクチン接種率向上への取り組みをしていますか。 1している 5していない	62(70.0)	-	-	-	23(26.0)	3(3.0)
	．予防接種研修会に関する要望・意見がある 1ある 5ない	13(14.8)	-	-	-	74(84.1)	1(1.1)
	．当センター予防接種センター事業に関するご要望・ご意見はありますか。 1ある 2ない	5(5.7)	-	-	-	82(93.2)	1(1.1)
<p>* 麻疹ワクチンの質向上への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親に対し 麻疹の怖さ 日本の世界先進国の中でWHOから注意される程、麻疹発症率の高さと予防接種率の低さをアピールしている。 ・ 未接種者への個別勧奨 ・ポスター ・各家庭へ健康カレンダー配布 ・ 1歳6か月児健診、ポリオ予防接種時に未接種児にリーフレットを配布し指導している。 ・ 乳児期のBCG、ポリオ後に麻疹ワクチン勧奨のパンフレットを配布、生後11か月頃に同種のパンフを送付。さらに1歳半、3歳児健診時に未接種者に説明している。 ・ 1歳の誕生日を迎える前の月にハガキを郵送。随時接種勧奨。 ・ 1歳6か月児健診での予防接種歴チェック、未接種者への勧奨。 ・ 来所時には必ず母子手帳を見て確認 ・ 三混、ポリオ接種時には麻疹ワクチンは必ず受けるように勧めている。 ・ 集団接種だが、都合の悪い児のために個別接種でも対応している。 ・ 年に1回予防接種週間には、未接種者に個別通知している。 							

予防接種相談内容

(相談分類相談者別)

平成16年4月～平成17年3月

相談分類		相談者続柄			計	割合
中分類	小分類	本人・家族	専門家等	その他・不明		
接種時期・方法	基礎疾患と予防接種	240	9	8	257	61.6%
	既往症と予防接種	19	2	6	27	
	疾患罹患と予防接種	14	3	0	17	
	接種スケジュール	62	19	7	88	
	接種期間超過	32	5	1	38	
	実施医療機関	43	0	2	45	
	その他	44	14	4	62	
	中計	454	52	28	534	
副反応	ツ反・BCG	2	2	0	4	2.4%
	ポリオ	1	1	0	2	
	三種混合(DPT)	7	0	1	8	
	二種混合	1	0	0	1	
	麻疹	1	0	0	1	
	ムンプス	1	0	1	2	
	インフルエンザ	2	0	0	2	
	その他	0	0	1	1	
中計	15	3	3	21		
効果	ツ反・BCG	4	1	0	5	6.1%
	ポリオ	25	4	0	29	
	三種混合(DPT)	0	1	0	1	
	二種混合	1	0	0	1	
	風疹	5	0	0	5	
	ムンプス	4	0	0	4	
	インフルエンザ	1	0	2	3	
	A型肝炎	1	0	0	1	
	B型肝炎	3	0	0	3	
	その他	0	1	0	1	
中計	44	7	2	53		
海外渡航	必要な予防接種・接種計画	155	4	16	175	23.3%
	海外の予防接種制度	3	1	0	4	
	予防接種実施機関	9	0	1	10	
	その他	12	1	0	13	
	中計	179	6	17	202	
その他	その他	35	14	8	57	6.6%
	中計	35	14	8	57	
計		727	82	58	867	100.0%
		83.9%	9.5%	6.7%	100.0%	

予防接種センター調査検討委員会

実施日時	平成17年3月2日(水)午後2時から午後3時30分まで
出席者	<p>愛知県健康福祉部健康対策課主幹 吉田宏(代理感染症G 榊原主査)、愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院副院長 尾崎隆男、愛知県医師会理事 河村昭徳、名鉄病院予防接種センター部長 宮津光伸、名古屋市健康福祉局健康増進課長 伊東高(代理 結核感染症係長上田耕二)、名古屋大学医学部小児科講師 木村宏、あいち小児保健医療総合センター長 長嶋正實 計7名</p> <p>(欠席:名古屋市立大学医学部教授 戸苅創、藤田保健衛生大学医学部教授 浅野喜造)</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいち小児保健医療総合センター予防接種センター平成16年度事業実績について 2 調査研究について 「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査」 3 予防接種センター事業について意見交換
討議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成16年度予防接種センター事業実績について及び麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査結果について、事務局から説明 2. 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査の概要 <p>麻疹ワクチン接種に関する自己チェック表による調査の2回目を実施 平成16年2月~3月(解説書配布前) 平成17年1月~2月(解説書配布後) 解説書の配布・作成「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査結果について」 啓発のための研修会の実施 シンポジウム「こうすれば地域から麻疹が撲滅される！」</p> (2) 質疑応答、意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目の調査と2回目の調査は同じ人が答えているのか。 医師会の診療科目の比率をみると、ほぼ同じ人が答えていると思われる。 ・ 病院小児科群が解説書を読んだ率が低いとのことだが、小児科医師の人数分を送っていけば一人ずつに行き渡る。 ・ ワクチンの温度管理について、冷凍で保管するのがよいが、添付の使用説明書には冷蔵と記載されているため、そうしている人が多いのではないかと。 冷凍しなさいではなく、温度管理のできるということが問題。 今回の2回の調査で意識が高まったと理解している。 ・ 2回接種議論については、MR ワクチンの話題やなどマスコミ情報から知識を得たのではないかと。 ・ このところ、麻疹患者をみていない。キャンペーンやこういった各地での調査が功を奏している。 3. その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度、感染症対策協議会で広域化の課題が出て議論されたが、具体的に先に進んでいない。感染症対策協議会がなくなるらしいとのこと、議論する場がない。 ・ これらの議論をする場が必要。医師会と各市町村の協力が必須。小児センターが中心になって場の設定など進める方向で考える。

予防接種センター調査検討委員会研究部会

〔第1回〕

実施日時	平成16年5月25日(水)午後7時から9時まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科講師浜口典子、川井小児科クリニック川井進、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸 あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計8名
議題	1. 麻疹ワクチンの質向上に関する調査について 2. 平成16年度予防接種研修会について
討議内容	1 麻疹ワクチンの質向上に関する調査について ・小児科医と小児科以外の差がみられた。 ・質問すること自体が教育になっている。 ・解説書を作成配布し、質向上を図り数ヵ月後に再調査し効果をみる。 ・解説の内容は、基本はガイドライン。小児科以外への啓発がねらい。 2. 平成16年度予防接種研修会について 今回の調査に関連したシンポジウム形式のもの、土曜日の午後 コーディネーター(宮津Dr) 麻疹の臨床“はしかとは”(濱口Dr) 今回の調査結果を元に(花田Dr) やっぱり受けよう予防接種(佐々木Dr)

〔第2回〕

実施日時	平成17年2月23日(水)午後7時から9時まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸、あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計6名 (欠席:愛知医科大学小児科浜口典子、川井小児科クリニック川井進)
議題	1. 麻疹ワクチンの質向上に関する調査結果について 2. その他
討議内容	1 麻疹ワクチンの質向上に関する調査結果について 平成16年1月に実施した二次調査結果及び一次調査との比較について報告。 ・アンケートの質問項目のうち、啓発・ワクチンの品質管理に関する項目で望ましい回答が増加したが、基礎疾患に関することや卵アレルギーへの対応などの接種そのものの行為についての項目は変化がなかった。 ・特に、医師会・小児科以外群には、解説書を配布したこともあるが、2回同じアンケートを実施したことの効果とみていいのではないかと。 ・情報を求めている関心のある者たちには効果がある手法。 ・アンケートの中での質問には回答をしたほうがいい。委員の皆様にご協力いただく。その内容は、当センターのホームページに掲載する。 2 その他 ・H17.4.1から適用となる「定期の予防接種実施要領」について 厚生労働省健康課から通知。技術的な助言として通知。主な変更点や話題になった点 ・個別接種を推奨していること、16歳未満の保護者同伴について、他の予防接種との関係(間隔)、日本脳炎予防接種の間隔副反応に関する説明等